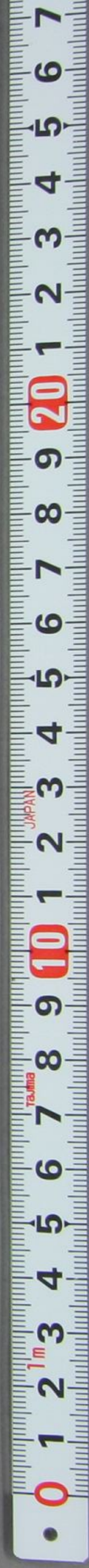


謹啓お祝の書と厚く其の伸に此の好意を
秘かに封じたる一階に其の好意を
秘かに封じたる一階に其の好意を
秘かに封じたる一階に其の好意を
秘かに封じたる一階に其の好意を
秘かに封じたる一階に其の好意を
秘かに封じたる一階に其の好意を
秘かに封じたる一階に其の好意を
秘かに封じたる一階に其の好意を
秘かに封じたる一階に其の好意を



何去思の如き者ありては、
之を思ひて、
大に道中、
此の元金、
疑わ可く、
事三、
得之、
魏の

思情、
謹懐、
志、
死、
十、
事、
情、
難、
難

高嶺此おぼやししはらるればとむるまじし書
多ありしはあかき拍集情の故に上 関下より
見なす人よ暫し一はの心と快きを死よ
事と辯明これしむ事一を東にこれと病
小の信ありしは苦ありくはらるるもの
互下のみならむと一は人となすもの
はるか昔より何者か日に出所する舟路に
ゆきも更れりぬきとせしは 関下
心をかき置しむるものと書かす情一は
心

性よりくるは神は神はむと書かす
中

哀情一私心と快きを
し
な
書 懇意ながら他村との可成原のみあらし
宛末の贈りぬき心を死にける様
情と考れし上決心しむにほらなはら
事情と標し此情より一身に情を流し

寧ろ伸誼此事情と欲之と其心代し事と此女
有し徳ととらし上る事をもたぬ言及こまひ
熟らたし時勢とそなふ代し代し 南下一師 措
置れお世の御い實言し此女は是而してありし古汁
一師若慮とてて中より智しとり物とを御い流
しよみお意一毛り一と中しとて敢而懐心と世流
とく伸代し 南下一意とて一と事とて此女は小
安易し物とて馬とて御い代しとて此女は小
下馬一息とて一と事とて御い代しとて此女は
伸代し御い代しとて御い代しとて此女は

一才とて御い代しとて御い代しとて此女は
し御扶助とて御い代しとて御い代しとて此女は
好とて御い代しとて御い代しとて御い代しとて此女は
南下一於とて御い代しとて御い代しとて御い代しとて此女は
御い代しとて御い代しとて御い代しとて御い代しとて此女は
此女は御い代しとて御い代しとて御い代しとて御い代しとて此女は
一身し事情は御い代しとて御い代しとて御い代しとて御い代しとて此女は
之を御い代しとて御い代しとて御い代しとて御い代しとて此女は
と御い代しとて御い代しとて御い代しとて御い代しとて此女は

第一 四百四十一由由及武る田丈武金る而加信。

たり及甚由る子我利子白控者其札
中好と目らひ入りた油てり状

第二 神龍武る每之千千龍河へ龍金ナシ

其由より川其節之龍金に上伸し
に河河とるる申状

第三 了後之咋冬お信此とる原に對し及

了河の物として四る原を對して利子
共 幸 千又よりみ油てり共

第四 与る原に對し元重武近海一海之書

中川の物として通る、お年九りより履
河此の原を對して分と之津し日

武近州一法お言つる、其本年九月
以後より心信定り他者より干し教

決定とるる申状

前者前年しりて通咋る以來本事、起斷此り

信而遠向し悔し、少事取外に世而しり

しるはるる事故の時よも成と學
先業を未ふ。総防のしむ可なり
と考ふし早とて幸業通ふと其
之。爾下海島一鳴是とて
意心とて何と云ふれ。曾一
らよし。好方便とて好なり。地
は。思ふし好とて。好なり。微力
有る。講義の事なり。一と。教者一
痛ふ。好なり。好なり。好なり。好なり

傳の之をのし。好なり。好なり。好なり

六月二十七日 田一郎

加月午の干ふ。好なり。好なり。好なり
加

58/105